

ダイジェスト版

目指せ、公認会計士！

秋田市立秋田商業高校
2018年6月6日

公認会計士・監査審査会
会長 廣本 敏郎

公認会計士試験



目指せ、
公認会計士!

公認会計士試験に
チャレンジしてみませんか

インターネット
からの出願が
便利です

「目指せ、公認会計士！」

- **公認会計士とは**
 - “監査” 及び “会計” の専門家
- **会計なくして経済なし**
 - Mission (ミッション)
 - ⇒ 公認会計士の使命 (公認会計士法第1条)
 - Professional (プロフェッショナル)
 - Global (グローバル)

会計・監査の世界
市場経済、複式簿記、企業経営

複式簿記の誕生

- 利益を測る技術としての「複式簿記」
 - それは、遅くとも1400年代の北イタリアで、地中海貿易に従事した商人たちによって生み出されました。

歴史上の証拠

ルカ・パチョーリ(1445-1517)が、ヴェニスで1494年に出版された数学の教科書の中で、利益測定技術（複式簿記）を解説しています。

（桜井久勝神戸大学教授の夢ナビライブ講義より）

ドイツの詩人、劇作家による評価

- 商売をやってゆくのに、広い視野を与えてくれるのは、複式簿記による整理だ。整理されていればいつでも全体が見渡される。細かいことでまごまごする必要がなくなる。複式簿記が商人に与えてくれる利益は計り知れない。
 - 複式簿記は、人間の精神が生んだ最高の発明の1つだね。立派な経営者であれば誰でも経営に複式簿記を取り入れるべきなんだ。

(Goethe, Wilhelm Meister's Apprenticeship and Travels. Translated by Thomas Carlyle. London: Chapman and Hall, 1824)

Y. Ijiri, Historical Cost Accounting and Its Rationality, Research Monograph, 1981, p.21.

現代経営の中枢を成す会計

- 日本経済は成熟化し、成長神話は崩れ去り、複雑なグローバル経済の中に組み込まれている。このような時代においては、経営者は、自社の経営の実態を正確に把握した上で、的確な経営判断を下さなくてはならない。そのためには、会計原則、会計処理にも精通していることが前提となる。
 - ところが日本では、それほど重要な会計というものが、経営者から軽視されている。会計と言えば、事業をしていく過程で発生した金やモノにまつわる伝票処理を行い集計をする、後追いの仕事でしかないと考えている。 (続く)

現代経営の中枢を成す会計（続）

- 経営者にとって必要なのは、結果として「いくら利益が出たか」であり、会計の処理方法は専門家が分かっているだけでよいと思われ、更に、会計の数字は自分の都合の良いように操作できる、と考えている経営者さえいる。
 - 私は京セラを創業、ゼロから経営を学んでいく過程で、会計は「現代経営の中枢」を成すものであると考えるようになった。企業を長期的に発展させるためには、企業活動の実態が正確に把握されなければならないことに気づいたのである。（稲盛和夫『実学』日本経済新聞社、1998年、2-3頁）

市場経済の根底にある利益概念とモラル

- 経済の世界は、自分自身の境遇を改善せんとする欲望によって導かれている世界である…利己心というものが経済という世界の原動力である…
- (しかし) スミスによると、この利己心というものは、めいめいが何でも勝手放題なことをしてよろしいというのではなく、そこに一つの社会性がなければならぬということになっている。社会的な枠のない、無軌道な、勝手気ままな欲望の追求というものは、人間の行為でもなければモラルでもない。

(高島善哉『アダム・スミス』岩波新書、1968年、76頁)

市場経済の根底にある利益概念とモラル（続）

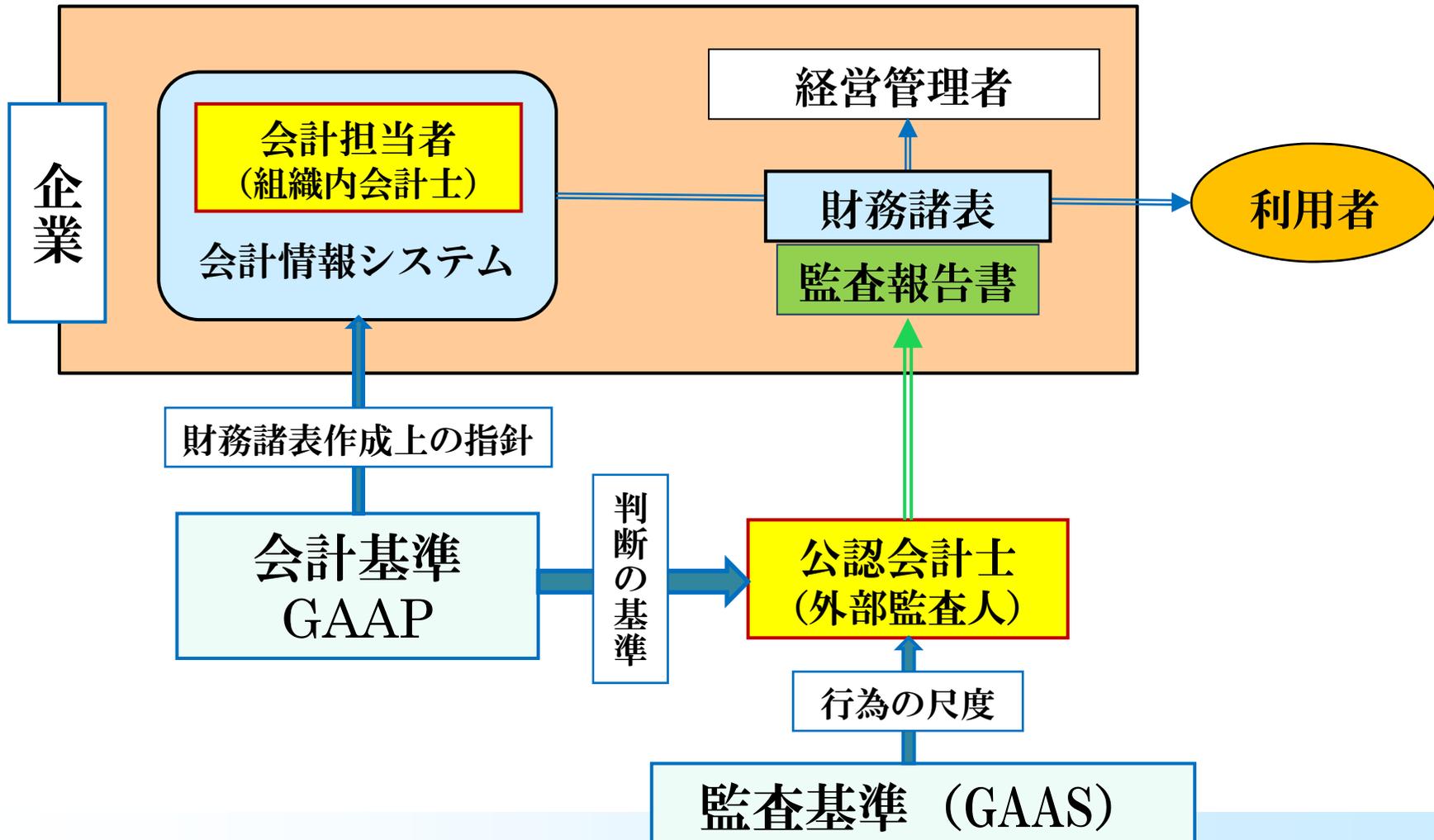
市場経済は、利益を追求する世界だから、市場経済は本質的に利益至上主義の世界であると考えるのは正しくありません。

市場経済が利益至上主義の世界に陥ってしまうのは、市場経済を動かす人間に、モラル、倫理観、あるいは経営哲学がない時です。

会計・監査の世界

資本市場と会計監査

財務情報の信頼性確保のシステム ～公認会計士の使命～



世界で続発した会計不正問題

2001年の米エンロンの破綻に始まった一連の不正会計問題を解決するため、米国政府はただちに一連の対策を講じました。

これを契機として、監査の質の確保・向上のために世界各国で監査業界から独立した監査監督機関が設立されました。

我が国でも、2004年4月、公認会計士・監査審査会が発足しました。

ブッシュ大統領スピーチ、2002年 ～株式会社の責任を改革すること～

- 組織というものは、良い考え、良い生産物、良いサービスを提供する必要があるが、そのためには、戦略的プランを策定するよりも前に、公共の利益に対する責任を自覚した、誠実な人物を必要としている。
 - 自由市場経済は、責任を持って行動する人たちに委ねられているが、経営者は、市場や自己の欲求に応えるだけでなく、良心の欲求に応えなければならない。…企業は、社会に対して誠実でなければならず、また環境を大切にしなければならない。…

ブッシュ大統領スピーチ、2002年 ～株式会社の責任を改革すること～

アメリカのビジネスの大半は、そうしたことを自覚しているし、善悪の区別もつけている。…特に公開会社（上場会社）については、法律が会計事務所の監査を受けた上でのディスクロージャーの基準を定めている。

- 経営者には、資本主義の原点に立ち返り、投資家がリスクの内容を知った上でリスクを負担することができるように、…適切な情報を誠実に提供する義務がある。
 - 情報が更に信頼できるものとするために、アメリカで最も尊敬を集めている専門職の1つである会計士に、経営者を厳しくチェックする基準を開発し、強化することを確実にする。
 - 会計士が最高レベルの倫理規定を遵守するための独立した規制機関を保有すべきである…

（百合野正博『会計監査本質論』森山書店、2016年）

公認会計士・監査審査会

Certified Public
Accountants and
Auditing Oversight Board

公認会計士・監査審査会



むすび

職業としての公認会計士

公認会計士の活躍領域の拡大



公認会計士という職業の可能性

- 国際会計士連盟（IFAC）会長は、2015年12月に東京で開催されたシンポジウム「グローバル経済を支える公認会計士の魅力と社会的責務」の基調講演で、次のように語っています。

公認会計士はグローバルな将来の可能性が素晴らしいキャリアであり、これからの公認会計士には、その将来の可能性に向けて広い視野を持ってほしい。

公認会計士は、社会からグローバルな視点と対応力が求められている。

公認会計士という職業の可能性（続）

皆さんは、公認会計士として身につける知識や手段を使って、いかに公共の利益に変化をもたらす貢献できるか、大胆な想像力で公認会計士という職業を進化させていってほしい。

そのためにも、次世代のリーダーとして常に正しい行いをすることによって、公認会計士という職業は最高レベルの倫理と行動に支えられているという価値観を守ってほしい。同時に、誠実さ、公正さ、善良さによって、キャリアの基盤を強化していってほしい。

（『会計・監査ジャーナル』2016年3月号、140-141頁）

公認会計士は、皆さんの未来の
魅力ある選択肢の1つです。

自分が向かうべき未来に向かって
しっかりと地固めをして
悔いのない高校生活を送ってください。

公認会計士・監査審査会 廣本敏郎